

# SWOT 分析：障害福祉サービス業界 (就労継続支援 A 型)

---

## Strengths (強み)

- 法制度に基づく公的支援があり、経営基盤が一定程度安定。
- 雇用継続支援を通じて、地域社会に不可欠なインフラとしての役割を担う。
- 利用者個々に対する継続的な支援により、信頼関係が築きやすく、地域とのつながりも強い。
- 昨今の多様性重視の流れにより、社会的意義や評価が高まりつつある。
- 災害時や感染症流行時においても「福祉インフラ」として稼働が優先される傾向がある。

## Weaknesses (弱み)

- 利用者の生産性には個人差が大きく、業績が外部環境に左右されやすい。
- 最低賃金支払い義務がある中で、事業収益とのバランスが取りづらい。
- 福祉従事者の確保が困難で、職員の離職率も高い。
- ICT やデジタル活用の遅れが現場業務の負担増につながっている。
- 利用者支援と利益追求の間でジレンマが生じやすい構造。

## Opportunities (機会)

- 政府の「地域共生社会」構想により、自治体連携や多機関協働の推進が加速。
- IT 技術（RPA、クラウド、VR 等）の導入で業務効率と支援精度の両立が可能に。
- ESG 投資・SDGs との親和性から、大手企業との協業・委託が拡大。
- メタバース空間や e スポーツ、クラウドワークなど、新しい就労形態の出現により、支援対象の拡大と多様化が可能。
- 外国人支援との連携強化によって「国際福祉モデル」としての発展可能性も。

## Threats (脅威)

- 最低賃金の上昇や物価高騰によるコスト圧力が続く。
- 報酬改定における制度変更が予測困難で、ビジネスモデルが不安定化しやすい。
- 障害者雇用率達成に向けた企業の積極採用により、通所者の流出が発生するリスク。
- IT 技術の導入が進む一方で、職員・利用者のデジタル格差が拡大。

- 社会の「成果主義」志向が福祉現場にも影響を及ぼし、支援の質が問われる局面が増加。